



# 今月のFujimist

かさほら けいいち  
笠原 敬一 さん(鶴瀬西2丁目西町会防災会会長)

☎ 危機管理課 ☎049-256-7962

「あれは10数年前のこと。当時の職場の隣の建物でボヤ騒ぎがあって、消火器を持って現場に飛び込んだんです。無事消火できましたが、その時に消火器の凄さと、準備の大切さを痛感しました」。実体験を語ったのは、鶴瀬西2丁目西町会長の笠原さん。近年の自然災害の激化による地域住民の防災意識の高まりに呼応して、つるせ台小学校区の9町会が合同で防災活動を行う「つるせ台小学校区防災連絡会」や、自らの町会内で防災に特化した自主防災組織「鶴瀬西2丁目西町会防災会」の立ち上げなどを行ってきた。「一人ひとりが災害を自分事として考えてもらいたい」との思いから、絶対的なリーダーが引っ張るのではなく、誰もが意見を伝え合える組織の醸成に努めている。

笠原さんが考える鶴瀬西地域の課題は、市の特徴的災害である浸水被害の心配は少ない反面、井戸が少なく、大規模地震発生時に生活用水が不足すること、住宅密集地のた

め火災が広がりやすいこと。そのため、住民に普段から非常用持出品の準備を呼びかけるパンフレットを配布するなど、啓発活動を行ってきた。また、冒頭の体験から、地域の消火器・消火栓の点検・交換・設置を進めるつもりだ。

笠原さんの防災会活動は、長年の地域活動で確信した考えが根底にある。「一番大切なのは、地域に住むすべての人が誰も取り残されることなく仲良くなり、団結すること。防災は、みんなで考え、みんなで協力し合って、みんなで続けていかなければならない活動ですから」と笠原さんは強く語った。住民が互いを知ること、互いに思いやる気持ちを育てていく。それが有事の助け合いにつながる。

「いつ起こるかかわからない災害への備えはいつやるのか。明日にも災害はくるかもしれない。だから、行動するのは今でしょ」。危機に対して傍観者ではいられない。そんな笠原さんの行動力が、地域を災害から守る力を高めている。

広報「富士見」は、市内の公共施設や駅などにも置いています。声の広報「富士見」(音声DASIVプレイヤー)版は市内図書館で貸し出しています(市ホームページで聴くこともできます)。



市公式ホームページ



SNS



【カタログポケット】広報「富士見」を多言語で



【マイチロ】広報「富士見」をスマートフォンで



【テレ玉データ放送】テレ玉(地デジ3ch)視聴中にdボタンで市の情報を視聴

## 人口と世帯数(8月1日現在)

人口…112,236人(前月比 -4人)  
(男 55,234人 女 57,002人)  
世帯数…53,516世帯(前月比 +43世帯)



富士見市は持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています。